

Structure Kansai

No.156 2023.1

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

2023年 迎春号

「うめきた2期地区開発プロジェクト
2022年11月15日撮影」



年頭のご挨拶
関西支部長

(株)大林組
大住 和正



年頭のご挨拶
関西副支部長

(株)山田建築構造事務所
宮崎 英也



年頭のご挨拶
関西副支部長

(株)日建設計
嘉村 武浩

新年あけましておめでとうございます。2020年当初の新型コロナウイルス感染拡大から約3年が経過し、私たちの環境や働き方は大きく変化しました。コロナ禍以前は、私たちの職種にはなじまず、無理だろうと感じていたテレワークも一気に加速し、withコロナの社会が本格化した現在も一定の割合で定着しています。テレワークは一例ですが、既成概念が思いのほか容易に覆ることを経験したのではないのでしょうか。

現在私たちはSDGs達成に向けて、建築のCO₂排出量を削減し、カーボンニュートラルを実現するため、建築材料の低炭素・脱炭素化技術の開発、木質材料等エコマテリアルの有効利用、建物長寿命化促進等に取り組まなければなりません。また、急速に進歩するデジタル技術とそれに伴う社会の変化を敏感にとらえ、構造技術者としてのDXを実現することも重要です。これら課題に対して、既成概念を取り払った新鮮な目であらためて見直し、会員の皆様とともに取り組んでいければと思っています。

本年も引き続き皆様方のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

あけましておめでとうございます。

早いもので副支部長に就任してから1年半が過ぎ、残すところ半年となりました。残りの在任期間も支部長、副支部長と協力し、支部活動に尽力してまいります。

昨年は3年ぶりのJSCA関西デザイン発表会や、日帰りのJSCA関西支部研修会が開催されました。徐々にオンラインから対面形式へとシフトし、久しぶりに会員の皆様とコミュニケーションを取ることができて大変嬉しく思っております。本年はJSCA関西支部創立40周年記念事業のイベントなど大きな催しを予定しております。会員間の交流の輪を広げるきっかけになると思いますので、ご参加をよろしく願いたします。

2023年は癸卯(みづのと・う)です。「これまでの努力が花開き、実り始めること」という意味があり、厳しい冬ほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になると言われています。兎のように勢いよく跳ねながら成長し飛躍するような年になりますよう祈っております。本年も引き続き皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍の中始動した大住支部長のもとでの運営体制も1年半が経ちました。感染状況が目まぐるしく変化するなか、会員間のコミュニケーションをどう活性化していくか手探りでの支部運営が続いてきています。オンライン形式を利用した分科会活動や講習会の開催により、これまでになかった他支部の方々との交流も生まれる一方、久々の対面での開催により、あらためてその良さを再認識してきています。年始の新年研究会はオンラインを併用しない対面形式のみでの開催が予定されており、対面ならではの活発な議論が期待されます。

今年は例年の事業に加えてJSCA関西40周年記念事業のイベントが控えています。ウイズ/アフターコロナへの適応を引き続き考えていく必要がありますが、この逆境を会員の皆様の結束力で乗り越え、この機会に関西支部での交流がさらに活性化されていくことを祈念したいと思います。

本年もJSCA関西の活動への積極的なご参加、ご支援を賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。



技術委員長
株式会社 日建設計
吉田 聡

■技術委員会の活動状況と活動方針

JSCA関西技術委員会は、現在9つの分科会で構成されており、分科会メンバーによる情報・意見交換会と、分科会メンバー以外のJSCA会員に門戸を広げた拡大分科会（見学会や研究会等）を主な活動としています。2022年は、2020年から続くコロナ禍の中、すっかり一般的となったWEB会議による分科会の他、対面とWEBの併用などの工夫をして活動を行っています。2022年6月には、2019年5月以来となる関西支部構造デザイン発表会を開催しました。対面+WEBのハイブリッド型の開催としたことで、計282名と過去最大の聴講者を迎えることができました。また情報システム分科会はメンバーを一新し、2022年12月に拡大分科会を開催しました。2023年5月には構造デザイン発表会を開催予定です。発表者・聴講者を募集しますので奮ってご参加ください。引き続き分科会活動へのご理解・ご協力、また拡大分科会へのご参加、よろしくお願いいたします。



株大林組
西影 武知

■地盤系分科会

新年あけましておめでとうございます。2022年度より主査を務めています。当分科会は設計事務所・ゼネコン設計部・基礎関係の専門家・第三者機関など多岐にわたる業種のメンバーで構成され、現在26名で活動しています。分科会は例年3～4回の開催を目標に活動しています。2019年の建築基礎構造設計指針改定以来、基礎の二次設計についての意見交換や、見学会などの活動を続けてきました。「地盤」については難しそうなイメージがあるかもしれませんが、今年度からは「じばん」全体に関することをテーマに、あまり難しく考えることなく幅広く意見交換や情報共有を行いたいと思います。またSDGs・脱炭素など新しいテーマにも取り組んでいく方針です。コロナ禍でリモート開催が続いていましたが、10月に開催した分科会では対面での出席者が14名となり活発な会となりました。今後もますます盛り上げていきたいと思っています。興味のある方は是非ご参加ください。



株北條建築
構造研究所
橋本 宗明

■RC系分科会

あけましておめでとうございます。昨年は、3か月に1回のペースで分科会を開催することができました。分科会メンバー皆様のご協力のおかげです。ありがとうございます。今年のトピックは、プロジェクト紹介3件、BIM関連、断層の地盤変位を考慮した杭基礎設計法の提案、鉄骨コンクリート造の講習会報告、現場見学でした。なかには、分科会でしか聞けない話題もありました。また、3年ぶりに開催した現場見学会には、多くの分科会メンバーが参加し、そのあとの懇親会は、久しぶりということもあり、大変盛り上がりました。本年も年4回の予定で活動していきます。現在、分科会メンバーは24名です。ありがたいことに毎年新たなメンバーを迎えることができています。みんなが入りたくなるような楽しい分科会をモットーに今年もまじめに活動していきたいと思っています。皆さんの参加お待ちしております。本年もどうぞよろしくお願い致します。



(株)竹中工務店
九嶋 壮一郎

■金属系分科会

新年あけましておめでとうございます。金属系分科会は、賛助会員の方を含め33名で活動を行っています。設計事務所、ゼネコン構造設計部、確認審査機関の会員に加え、高炉メーカー・建材会社の方々にも賛助会員として参加頂いており、鋼構造を中心とした最新の設計事例の情報交換や賛助会員の方からの新商品のご紹介等の活動を行っています。

2022年はトップランナーご講演として、KAP代表・構造家岡村仁様にご登壇頂き、コロナの合間をぬってリアルな懇親会も開催しました。また、梅田地区での超高層オフィスの作業所見学会も実施しました。2023年も会場とzoomでのハイブリッド開催が続きますが、「リアルに触れる」をキーワードに、状況を見ながら活動を進めてまいります。体験参加も可能ですので、興味がある方はお気軽にご連絡ください。



株東畑建築
事務所
松村 健

■情報システム分科会

2022年度より主査を務めることになりました松村です。しばらく休止していましたが当分科会を2022年9月から再開することとなりました。当分科会では、引き続き、構造計算プログラム、BIMの他、特殊解析ツール、最適化・AIなどの幅広い分野の情報提供、収集していこうと考えています。9月の時点で、設計事務所、ゼネコン構造設計部より参加頂いた新たな6名でスタートすることとなりました。取り急ぎは、分科会の紹介と分科会メンバーを募集することを目指し、12月15日に拡大分科会『構造設計におけるBIM等のデジタルツールの活用事例紹介』をオンラインにて開催することになりました。

構造設計においても、これから益々、解析ツール、BIM等のデジタルツールの活用機会が増えてくると思いますので、興味がある方は、当分科会に是非ご参加下さい。



㈱イオリ建築
設計事務所
平石 浩二

■耐震設計分科会

耐震設計分科会の活動テーマは『耐震設計について見分を広める』です。

総合設計事務所、ゼネコン構造設計部、構造専門事務所、構造計算適合性判定機関等の会員17名で、年4回の開催を目標に活動しています。主な活動内容は、免震・制振建物の現場見学、設計事例紹介、講師を招いての勉強会、工場見学などです。会員同士の交流を図るため、対面を基本としています。懇親会では和気あいあい、意見交換から業界裏話まで貴重な情報交換の場となっています。

2022年度は、6月に鉄骨柱梁仕口部既製品紹介、12月に現場見学会を開催しました。また、1月に鉄骨ロボット溶接の勉強会、3月に設計事例紹介等を開催予定です。2023年度も積極的に活動していきたいと考えていますので、『参加してみたいなあー』と思った方はJSCA関西事務局へご連絡ください。



(株)大林組
古島 正博

■PC・工業化分科会

PC・工業化分科会は、プレキャスト、プレストレストコンクリート、工業化などをキーワードとした分科会です。メンバーは現在19名で、ゼネコン設計部・設計事務所で構造設計をされている方や、構造系の大学教員、第三者機関、PC専門メーカーの方などで活動しています。分科会は年に3回程度開催しており、2022年はプレキャスト及びプレストレストを用いた設計事例の紹介などを、6月はオンライン会議で11月は久々に対面（+オンライン併用）で行い和気あいあいとやっております。

PCの経験のない方もおられると思いますが、分科会活動を通じてPCの理解を深めることができます。当分科会の活動に興味を持っていただいた方、JSCA関西事務局に是非ご連絡ください。よろしくお祈りします。



㈱山田建築
構造事務所
田中 政寛

■構造計画分科会

構造計画分科会は、現在約20名のメンバーで年3～4回の開催を目標に活動しています。

主な活動内容は、実際に設計した事例を設計者に紹介していただき、質疑応答などによる意見交換を通じて、構造計画や構造設計に関する広い知識の共有と各人の技術レベルの向上を目指しています。設計事務所、ゼネコンの構造設計部や大学関係者など、様々な立場の方々から構成されていますので、他の構造設計者の苦労や工夫を感じるだけでなく、いろいろな情報を得ることができ、勉強になります。コロナの影響で最近はオンライン開催が主でしたが、会員同士の交流を活性化するため、昨年後半より対面形式での開催としています。ネットワークを広げる機会としてもぜひこの分科会を活用下さい。

新規メンバーも募集していますので、興味のある方はぜひJSCA関西事務局までご連絡下さい。



(株)ヤマダ
ホームズ
石田 健吾

■木構造分科会

木構造分科会では、会員構成を若手会員中心に据え、構造設計者だけでなく意匠設計者や施工者（JSCA会員で関西支部所属）も参加しています。性能規定型設計法である限界耐力計算を基軸に木造のもつ本質に迫り、安易な補強に頼ることなく、木材・木造がもっている長所を生かして、本来の木造の美しさ、しなやかな力強さを構造設計の観点から再評価するために、知識・技術の向上を図ってもらうことを目指しています。このことは昨今叫ばれているSDGsやストック型社会への転換にも通じます。

分科会の活動で得た知識・技術を生かし、今年は、令和7年施行予定の改正基準法に対応すべく、京都市、大阪府や奈良県等にも採用されている「JSCA関西木造耐震マニュアル」の改定に取り組む計画で、伝統構法建物だけでなく一般の住宅なども対象に既存木造建物の保全や改修にも貢献していきます。



㈱山田建築
構造事務所
野村 建太

■法制分科会

このたび法制分科会の主査を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが分科会メンバーの皆様にご協力をいただき、より充実した活動を目指して参りたいと思っております。

当分科会は、現在12名のメンバーで、3～4カ月に1回程度開催しております。活動内容は、主に建築基準法改定の内容や、新聞や雑誌の報道記事などの建築法制に関わるさまざまな問題について、実務に携わる構造設計者間の情報交換や討論を行っています。また、弁護士で一級建築士でもある先生にアドバイザーとしてご参加頂いております。分科会活動は、分科会メンバーが活動しやすいよう配慮し、対面とリモートとの併用で開催していますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

日本建築学会大会2022参加報告



株式会社大林組
阿野田 瑛二

■はじめに

2022年度の日本建築学会大会は9月5日～8日の4日間、北海道科学大学およびオンライン会場の併用で開催されました。オンラインではありましたが、私の参加した9月6日、7日のPDについて報告します。

■PD「高支持力杭工法の信頼性確保のための課題—何が変わったのか、今後どうあるべきか—

既製コンクリート杭のプレボーリング埋込み杭工法において、杭先端部に拡大根固め部を築造して大きな鉛直支持力を得る工法が主流となっており、本PDではこれらの工法での構造設計における課題、現場施工における課題についてクローズアップされた説明がありました。

構造設計に関しては、高支持力杭の沈下特性の評価や耐震性に関する内容があり、沈下特性についてはFEM解析の結果と現行の基礎指針やJSCAの基礎地盤部会で示されるばねモデルとの比較例が示されていました。場所打ち杭と異なり建物の沈下実測データが少ないため、評価式の精度向上のためにも、設計者として沈下予測や実測データなどをフィードバックしていく必要があると感じました。

現場施工に関しては、昨今のICT技術を施工管理に用いる構想が述べられていました。今後のデジタル技術の発展とともに更なる進化が期待されるところです。

■PD「木造建築多様化時代における木質構造材の特性値の課題と方向性」

PDのテーマは用途規模が多様化する木造建築物における木質構造材の特性値について、その導出根拠や妥当性、見直しの必要性に対する内容が主題でした。

現行の構造用製材、集成材、面材の材料強度に関する規定について、その変遷や導出根拠についての説明があり、設計に用いられる基準強度に対する考察がな

されました。

構造用製材では、アメリカやヨーロッパでは考慮されている製材の寸法効果が日本農業規格では規定されていないことから、その曲げ強度に関する寸法調整係数についての提案がなされていました。また、曲げ強度だけでなく、圧縮・引張にも同様の係数を考慮する必要があると考えられており、大断面の製材を使用した設計をする際にはその影響を考慮する必要があるため、今後の動向に注目していくべきと感じました。

大規模木造建築等でも使用されるLVLやCLTに対して、接合部検討などで用いる支圧強度に関する議題もありました。ここでは現行の木規準の支圧強度と他の指針類、各国の規準との比較がなされており、近年の研究の動向も踏まえて現行の木規準に対する課題が提示されました。

その他にも、構造用製材のせん断剛性に関するもの、座屈強度に関するもの、切欠きを有する集成材の強度に関するもの、割裂強度に関するものと、非常に多岐にわたる内容の議題があり、昨今の木造への注目度の高さを再認識しました。



2022年度
日本建築学会大会参加報告

株式会社竹中工務店
柳澤 信行

■はじめに

2022年9月5日～8日の4日間、北海道科学大学とオンライン会場を併用して日本建築学会大会が開催されました。私がパネルディスカッション (PD) を中心に聴講させていただいた中で、印象に残ったものをご報告させていただきます。

■PD「FEMはどこまで進んだのか? —最新の情報紹介と今後の展開—

RC造へのFEM解析の適用は1960年代後半に始まったとされています。1991年には、建築学会大会でFEMをテーマにしたPDが開催されましたが、その後、約30年のFEM解析の進化や今後を見据えて何が必要なのかをテーマにしたPDでした。FEM発展の振り返り、論文統計調査に基づくFEMの利用状況の紹介から始まり、研究分野での実験シミュレーションを中心とした活用事例、実大実験に基づく建物—杭—地盤連成系のシミュレーション

解析、設計実務への適用事例など、様々な紹介がありました。計算機の性能向上やRC非線形挙動を表現する材料モデル等、解析技術は確実に進化していますが、「付着特性のモデル化」など、解決すべき課題もまだ存在していることもお話しいただきました。実務の設計においては、建築確認申請での取り扱いやFEMの専門家とは言えない設計者が試行錯誤しながらモデル化に取り組んでいることなど、皆さんも私と同じように苦労をしていることが分かり、JSCA等を中心にして、設計者への教育や事例の蓄積、ガイドライン整備などの必要性を痛感しました。

■PD「免震・制振技術の周辺環境と未来—免震・制振の10年後・30年後を見据える—

「免震・制振技術が実用化されて約40年、多くの地震でその効果が確認されたが、思ったより普及が進まない。研究・技術分野においても、ある種の閉塞感のようなものを感じることもある。この閉塞感を打破し、10年後・30年後の免震・制振技術の発展に繋がるアイデアやヒントに期待して、本PDを企画した」という主旨説明

でPDはスタートしました。主題解説では、近年実現または公表された「免震・制振の垣根を超えた新しい構造システム」、免震構造との組み合わせの少ない「免震×木質構造」、「免震×大空間」の実施例が紹介されました。未来を感じさせる主題解説として「制振×地震学」と題して、リアルタイム地震動予測を用いた建物振動制御、「制振×AI」と題して、制振構造へのAI・最適化ツールの活用、建築の専門家以外からの主題解説として、損害保険会社の方から、地震被害から社会を守るパートナーとして、保険業界と建築業界の連携、現状の取り組みと課題、保険業界から建築業界への期待について、地震災害を報道されてきた報道機関出身の方から、地震に対する国民や企業の意識、非専門家が免震・制振に期待することなどのご講演があり、興味深く聴講させていただきました。

冒頭にお話しされた閉塞感について、私個人としても少し同ような感覚を持っていましたが、様々な新しい取り組み、チャレンジをお聞きして、前向きな気持ちを奮い起こしていただきました。



JSCA関西支部現場見学会
「(仮称)堂島2丁目計画
新築工事」
株式会社建築設計事務所
正野 和司

■はじめに

当日、事務所から見学現場までは、中之島～堂島にかけて歩いて向かいました。きれいな高層ビル群が建ち並び、今もなお建設中の建物がちらほらと見受けられます。昔の景色との変わりようを感慨深く思いながら、中でも特徴的な形状をもつバルコニーリブを備えた建物「堂島2丁目計画」を見学させていただきました。見学会では、設計・施工のストーリーを解説いただいたうえ、施工中の内部を見学後、質疑応答もおこなっていただきました。中之島・堂島周辺の高層ビルに引けを取らない、大阪の新たなシンボルとなりそうな予感がしました。

■建築概要

平面は矩形の整形な建物ですが、湾曲した南北のファサードが特徴的です。ホテルと共同住宅という195mの複合超高層で、動線を上手く区画しつつも、ヨットの帆のようなスレンダーで優美な形状をコンセプトとしていました。建物概要を以下に示します。

規 模：地上49階・地下1階

延床面積：約82,000㎡

高 さ：195m

構造種別：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
架構形式：耐震壁付きラーメン架構

+制震部材

制震部材：オイルダンパー、粘性制震壁等

設計監理：(株)日建設計

施 工：(株)竹中工務店

工 期：2022年4月～2024年3月



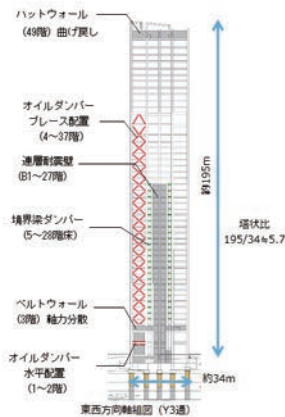
■建築計画概要

当敷地は周囲の環境も良く非常に利便性に優れた立地に恵まれた場所です。眺望の良い南北と東に居住空間を設け、西側にはコア部とタワーパーキングを計画しています。

住戸の外周部は、スラブを梁の中腹に設け、梁型が出ないすっきりとした納まりとしています。またそのバルコニーも上層に行くにつれて徐々にセットバックしており、非常に象徴的な外観を形成しています。平面中央には吹き抜けボイドを設けPSを集約することで、部屋内にPSを設けない計画を実現しています。

■構造計画概要

平面形状は、約33m×62m、アスペクト比は3.03～5.76です。構造はX(短辺)方向を耐震壁付きラーメン架構で、連層耐震壁+軸力分散用のベルトウォールに、オイルダンパー+境界梁ダンパーを用いています。Y(長辺)方向は純ラーメン架構で、波型鋼板耐震壁や粘性制震壁を併用しています。上層に行くにつれ、耐震部材・制震部材の設置数は減っていき、減衰部材のエネルギー吸収割合は全体で約30%とのことです。



床は居室部をボイド入りハーフPCaスラブ、共用部をトラス筋付きデッキとしています。一部のRC柱には鋼繊維コンクリートを採用し、引張力作用後も健全な状態を維持する工夫がされています。

外周部のRの梁にはPC鋼棒を用い緊張力を加えていました。当該梁に作用する荷重を抑えるためにPCa床版をかける方向も考えられていました。特徴的なのは連層耐震壁に接続する短スパン梁を境界梁ダンパーとして利用している点です。境界梁ダンパーは、ウェブに低降伏点鋼を用いたエネルギー吸収部材です。各種

耐震要素はコア部に集約しており、メンテナンス性にも配慮していました。



境界梁ダンパー

基礎は第2、第3天満層を支持層とした80m～130mの場所打ち杭です。壁構面の押し引きの激しい柱もあり、杭の拡底径はφ3600～φ4100となっています。

■施工計画概要

現場見学時点(2022.09.16)では、35階の躯体工事を進行中でした。階高が大きく変化する構造ではありましたが、主部材について積極的にPCa化を採用しており、工期短縮と施工効率化が図られていました。

地下部も、地上躯体の早期着手および生産施工性の向上のためセミ逆打ち工法によりヤードを構築しています。そのためFc120、PCaRC+H-250×250～250×300の構真柱を用いて、杭の施工精度を確保しています。杭は、第2天満層の被圧水に注意しながら、全旋回で既存躯体を解体し、施工したとのことです。



セミ逆打ち工法

■謝意

見学後の質疑応答も活発に行われ、大盛況で見学会は終了しました。

大変お忙しい時期にも関わらず、開催を快諾いただきまして、ご説明いただいた日建設計様、竹中工務店様に御礼申し上げます。また非常に有意義な見学会を開催いただいたJSCA関西支部の皆様にも感謝いたします。本プロジェクトが無事に竣工することを祈念いたします。

うめきた2期地区開発プロジェクト

北街区賃貸棟の構造設計

竹中工務店設計部構造部門 大野 正人
大林 優
青木 唯



■建物概要

うめきた2期北街区賃貸棟は、うめきた2期敷地の北側に位置する商業、イノベーション施設、ホテルを有する複合施設である。建物形状は、大きさが異なる立体キューブを繋げた形状となっており複数の軸がある非常に複雑な形状である(図2)。主な階数はM棟が26階建て、N棟が12階建て、B棟が3階建てである。

延床面積:約64,200㎡

階数:地下3階地上26階塔屋2階

建物高さ:約123m

■構造計画概要

図3にM棟の軸組図を示す。構造形式は制振構造であり、オイルダンパー、粘性体制震壁、粘弾性ダンパーを適材適所に採用している。B棟部分の建物規模が他棟と大きく異なることから地上部分はB棟とC棟の接続部にエクспанションジョイントを設けて構造的に分離している。地下部分は一体として設計を行っている。基礎は杭基礎とし、高層のM棟部分には竹中式多段拡径杭(軸径2400φ~2600φ)を採用し第一天満層と第二天満層で支持させている。建物外周部は支持する建物重量が小さいため山留兼用のTSP壁杭を採用し、公園側盛土による圧密沈下の杭への影響を抑制している。



図1 南西の公園からのパース

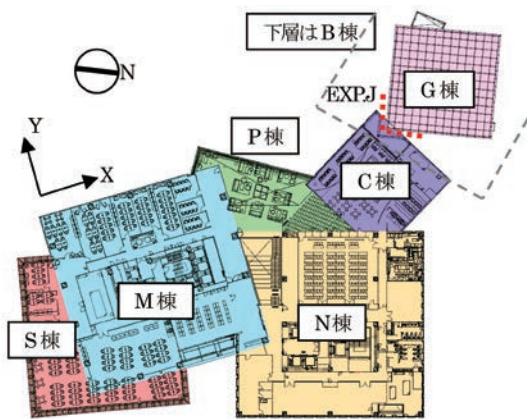


図2 4階平面図

13階より上層のホテル部分では梁成を小さくして階高を合理化するために柱を増やしているため、12階にトランスファートラスを設けて柱の長期軸力をスムーズに下階に伝達するとともに地震時の変形抑制を図った。

■設計用軸方向の選定

本建物には多数の軸が存在するが、主軸方向はM棟軸に対して9.24度回転した方向である。また、主要な架構であるM棟、N棟についてはそれぞれの棟の軸方向の加力時に最も厳しい設計条件となるため、それらの方向についても設計を行った。その他にはM棟軸に対する45度方向も検討を行い、合計で8方向に対して設計を行った。

■制振部材の設計

制振部材の選定について、まず高層のホテル部分には微小変形時にも剛性と減衰性能を發揮する粘弾性ダンパーを採用し風に対する居住性能を確保した。粘弾性ダンパーは1ユニットが小さいためその数量によってフレームごとの減衰力を決定し、各層において必要な性能分だけのユニット量を配置することで経済的な設計を行った。低層部には主にオイルダンパーと粘性体制震壁を採用した。

■地震応答解析

地震応答解析はフル立体モデルを用いて行った(図4)。本建物は12階で大きくセットバックするため、重心が大きく変化し、ねじれ変形が発生する。その対策として、外周フレームの剛性を上げてねじれ剛性を増大し、並進の固有周期とねじれの固有周期の差を大きくすることでねじれ変形を抑制した(表1、図5)。

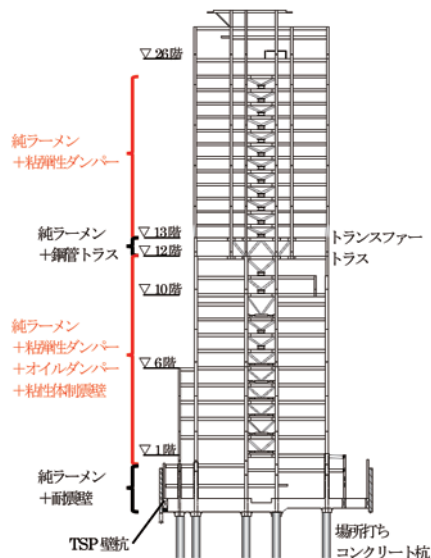


図3 M棟軸組図

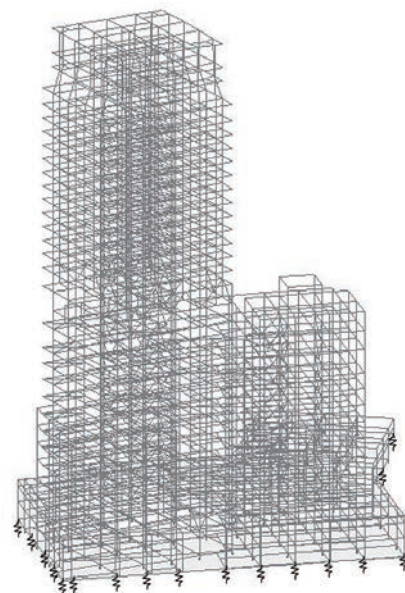


図4 応答解析モデル

表1 固有値解析結果

次数	固有周期(sec)	固有モード
1	3.84	X方向並進1次
2	3.67	Y方向並進1次
3	2.71	ねじれ1次

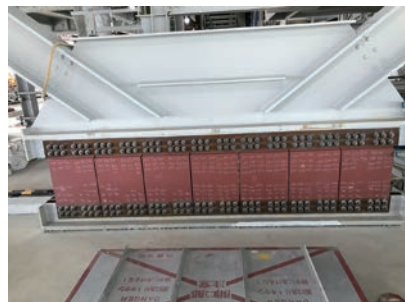


図5 粘弾性ダンパーの取り付け状況

●事務局だより

1.支部総会 開催なし

2.支部幹事会

1125予定(18:15~21:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

3.運営会議

1021(18:00~20:15)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

1125予定(16:30~18:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

1223予定(18:00~20:00)

Zoom会議

4.事業委員会

1003(18:00~19:00)Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:研修会企画および新年研究会について

1114予定(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:研修会企画および新年研究会について

1205予定(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:新年研究会について

5.技術委員会

1024(18:00~20:00)Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:各分科会活動報告・本部技術委員会の報告

1226(予定18:00~20:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:各分科会活動報告・本部技術委員会の報告

6.広報委員会

1221(18:00~19:00)

Teams会議併用

場所:鴻池組会議室

内容:1. Structure Kansai NO. 157号
編集会議

2. Structure Kansai NO. 158号
企画会議

7.耐震診断・補強判定委員会関西部会

1020 第112回(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

1215 第113回予定(18:00~19:00)Zoom会議併用

場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

8.木造住宅レビュー委員会

1018(17:30~18:45)

場所:(株)SERB会議室

内容:耐震設計レビューと実務講習会等
1122(予定17:30~)

場所:(株)SERB会議室

内容:耐震設計レビューと実務講習会等
12中旬(予定17:30~)

場所:(株)SERB会議室

9.構造レビュー委員会 開催なし

10.大震研委員会 今年度は休会

11.研究会・記念事業 開催なし

12.現場見学会

「(仮称)堂島2丁目計画新築工事」

0916 参加者27名

13.研修会

1122予定 JSCA関西支部2022年度

研修会「SDGs未来都市 真庭で

「木(モク)」のトレンドを探る

- 蒜山高原~真庭市 -」

14.支部報

Structure Kansai No.155

(2022.10)発行

15.技術委員会各分科会

○地盤系分科会

1020(18:00~20:00)

場所:大林組会議室+Teams会議ハイブリッド

内容:杭の二次設計に関する最近の話題、杭の耐震診断の提案

○RC分科会

1116(15:00~17:00)

場所:堂島2丁目計画作業所

内容:現場見学(仮称)堂島2丁目計画

○金属系分科会

1201予定(18:00~19:30)

場所:竹中工務店会議室

内容:入熱・バス間温度勉強会

(神戸大学名誉教授 田淵先生)

○情報システム分科会

1006(18:00~21:00)

場所:(株)東畑建築事務所 会議室

内容:拡大分科会発表内容の検討(デジタルツール活用事例紹介)

1215(14:00~16:00)

内容:拡大分科会(構造設計におけるBIM等のデジタルツールの活用事例紹介)

○構造計画分科会

1216予定(18:30~20:00)

場所:竹中工務店B1階T'sイノベーションサロン

内容:設計事例紹介「北海道ボールパーク」(開閉式野球場)

○耐震設計分科会

1207予定(15:00~17:00)

場所:梅田某作業所

内容:建物作業所見学

○PC・工業化分科会 開催なし

○木構造分科会

1117 予定(18:00~)

場所:(株)SERB会議室

内容:勉強会「曲げを受ける部材」

○法制分科会

1117(18:00~19:00)

場所:JSCA関西事務局 リモート併用開催

内容:一つの敷地内の過去の建物の責任が、最新の設計者がすべて負うという状況に関する法的な背景等(JSCA関西 技術委員会より)

ほかについて意見交換

※下線付きは拡大分科会を示す。

16.サテライト活動

・奈良会 開催なし

・京滋会 1109 参加者 31名

場所:企業組合センターしん

まち 6階会議室

講演:京都工芸繊維大学

満田衛資教授

・兵庫会 開催なし

17.講習会

・木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会

場所:安田ビル 地下会議室

0601 参加者 21名

1005 参加者 16名

18.親睦会 開催なし

19.関連団体との交流

・在阪建築15団体会長・支部長午餐会

1110

場所:綿業会館 本館7階大会場

●編集後記

お忙しい中、執筆にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

大阪駅北地区の開発からおおよそ10年、うめきた2期を含め大阪駅周辺は新たな変貌を遂げようと、明るい未来に向けて各プロジェクトが進行しています。

皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。(柳澤・山田)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL http://jscakansai.com/



JSCA 関西支部 創立 40 周年記念事業

記念事業企画『新時代だ！明るい未来社会を楽しみながら切り拓こう！！』

JSCA 関西支部創立 40 周年記念事業企画 WG

我々は大きな変化の流れの中にあります。AI や DX など過去のデータを活用しながら未来をつくる動きや、バーチャルな空間で新しいコミュニケーションを生み出す動きなどが加速し、新しい価値観が生まれています。JSCA 関西支部創立 40 周年記念事業企画 WG では、これから大きく変容していく社会の中で JSCA 会員が活躍していくことを願って『新時代だ！明るい未来社会を楽しみながら切り拓こう！！』をテーマに掲げました。

「(公社) 2025 年日本国際博覧会協会 ICT 局 大嵩 豪朗氏」と「バーチャル建築家 番匠カンナ氏」、「IT ストラテジスト 小西 貴裕氏」それぞれの分野から未来に向けた取り組みについてご講演をしていただき、新時代の構造設計を前向きに想像する一助になればと思います。また、会社や世代を超えてリアルな時間を楽しむ懇親会(※)も予定しています。有意義な会になるよう WG メンバー一同尽力いたしますので、万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますよう、よろしく願いいたします。

(※) 新型コロナウイルスの蔓延状況により中止する可能性があります。

日時：令和 5 年 2 月 17 日(金) 14:30~16:40(予定)

場所：中之島会館(中之島フェスティバルタワー・ウェスト 4 階) / ZOOM による web 配信も予定

主催：一般社団法人 日本建築構造技術者協会関西支部

プログラム

- ◆ 開会挨拶 (14:30~14:35) 支部長：大住 和正
- ◆ 講演会① (14:35~15:15) 40分
演題：「大阪・関西万博の最新動向について」 講演者：大嵩 豪朗氏
- ◆ 講演会② (15:15~15:55) 40分
演題：「メタバースは建築に何をもたらすのか」 講演者：番匠 カンナ氏
- ◆ 講演会③ (15:55~16:35) 40分
演題：「人と技術をつなげる新時代データプラットフォーム」 講演者：小西 貴裕氏
- ◆ 閉会挨拶 (16:35~16:40) 副支部長：宮崎 英也
- ◎ 懇親会 (17:00~)

<講演者のご紹介>



大嵩 豪朗氏
(おおだけ たけあき)



番匠 カンナ氏
(ばんじょう かなな)



小西 貴裕氏
(こにし たかひろ)

<参加申し込み方法>

参加の申し込みについては、会場参加・zoom 参加とも JSCA 事務局よりメールにて案内を行います。

(お問い合わせ TEL 06-6446-6223)

<懇親会の案内※>

会場：フェスティバル&ピアホール
(中之島フェスティバルタワー2 階)

会費：5500 円

形式：立食・ビュッフェ

※新型コロナウイルスの蔓延状況により中止の可能性がります。